

「トラウト選手と気象と感謝の気持ち」

【第3回】「トラウト選手と気象と感謝の気持ち」

この度は航空気象群ホームページ及び「気象の杜（気象コラム）」にアクセスいただきありがとうございます。本コラムをご覧いただくことにより、気象だけでなく、航空気象群や航空自衛隊にも興味を持っていただければ幸いです。さて、今回のテーマは「トラウト選手と気象と感謝の気持ち」です。

MLB (Major League Baseball) のロサンゼルス・エンゼルスに所属する大谷翔平選手の活躍は、最近の日本における数少ない明るいニュースの1つですが、同じエンゼルスに所属し、大谷選手も尊敬するスーパースター、マイク・トラウト選手はご存じでしょうか。先日トラウト選手に対する1問1答の動画を観ていた際、インタビュアーがトラウト選手に対し、「プロ野球選手でなかったら何をしている？」と質問したところ、トラウト選手は



マイク・トラウト選手

※ロサンゼルス・エンゼルスホームページより

「気象予報士だね」と即答し、「Love weather」と繰り返し言っていました。トラウト選手が気象を趣味にしていることは一部のファンの間ではよく知られており、気象に関するツイートに加え、竜巻の追跡（ストームチェイサー）、著名な気象キャスターの引退時にビデオメッセージで感謝の気持ちを伝えるなど、相当な気象フリークであることが窺えます。

前回のコラムで6月1日が日本における「気象記念日」であることに触れましたが、トラウト選手の出身地である米国においては2月5日が「National Weatherperson's Day」となっています。NOAA（アメリカ海洋大気庁（National Oceanic and Atmospheric Administration））のホームページによれば、この日は米国で初めて気象観測を実施した1人であるジョン・ジェフリーズ（John Jeffries）の誕生日を記念する日とのことです。ジェフリーズは、1774年、ボストンにおいて気象観測を開始し、1784年には初めてバルーンを使用した観測を行いました。また、この日は、気象、海や河川、気候に関する予報及び各国の警戒情報を提供してくれる気象従事者を認識する日とあります。

日常生活において当然と思っているもの、例えば、信号が正確に作動すること、電車や飛行機が時間通りに安全に運用されていることなどは、その裏にはこれを支えるために従事している人々があり、これらの人々に対する感謝の気持ちを忘れてはならないと思います。同様に、今日では天気予報をいつでも利用できることも当然のことかもしれませんが、「気象記念日」や「National Weatherperson's Day」といった記念日をきっかけに、正確な天気予報を伝えるため、日々悪戦苦闘している気象業務従事者にトラウト選手のビデオメッセージとまではいかなくとも、少しでも思いを寄せていただければ、気象業務に携わる1人としてこれに勝る喜びはありません。